

植野先生との思い出

土屋 結城

今年度いっぱい植野先生がご退職されますが、私自身は、植野先生には実践で12年間お世話になりました。

英文学科が日野キャンパスにあったときには、研究室が離れていたため、頻繁にお話をするような機会はありませんでしたが、渋谷キャンパスでは向かい合わせになったため、俄然顔を合わせる機会が増えました。研究室がお向かいということでお世話になったのは私だけではありません。私が指導していたゼミ生たちが廊下で面談までの時間を待っている間に、何の話がまとまったのか、なんと植野先生のもとでコーヒーをいただいていたのです。学生たちは「植野先生の部屋でのティーパーティ」と呼んで楽しんでいたようですが。その後、私も先生こだわりのコーヒーを何度かいただく機会に恵まれ、「これが日野時代に香っていたコーヒーか」と思ったものでした。

私が先生から学んだのはもちろんコーヒーの味だけではなく、外国文学を学び、研究する際の自分の立ち位置への意識、学生との接し方、大学のさまざまな業務への向き合い方など多岐に渡ります（とりわけ飲み会などでふと漏らされる言葉から学ぶことが多かった気も致しますが）。中でも特に印象深いのが、実践女子大学英文学科の歴史を私たちに伝えていこうとされる気概です。折に触れ、英文学科がどのような変遷を経てきたのかをお話し下さるのが興味深くもあり、また気が引き締まる思いをさせられるものでもありました。

植野先生がご退職され研究室の向かいが寂しくなりますが、ご家族と充実した時間を過ごしつつ、研究にもより一層励まれることと思います。先生の今後のご多幸をお祈り申し上げたいと思います。